令和4年 網走市議会
文教民生委員会 会議録
令和4年2月2日（水曜日）

○日時 令和4年2月2日 午前10時00分開会
○場所 議場
○議件

1. 所管事務調査について
 - (1) ごみ処理の現状について
 - (2) 学校給食について

○出席委員（5名）

委員長	松浦敏司
副委員長	近藤憲治
委員	石垣直樹
	金兵智則
	澤谷淳子

○欠席委員（1名） 工藤英治

○議長 井戸達也

○委員外議員（0名）

○傍聴議員（8名）

小田部 照
栗田政男
立崎聡一
永本浩子
平賀貴幸
古田純也
村椿敏章
山田庫司郎

○説明者

副市長	後藤利博
市民環境部長	武田浩一
生活環境課長	近藤賢

教育長	岩永雅浩
学校教育部長	田口徹
学校教育部次長	小路谷勝巳
学校教育課長	小松広典
学校教育部参事	高橋善彦

○事務局職員

事務局長	林幸一
次長	石井公晶
総務議事係主査	寺尾昌樹

午前10時00分開会

○松浦敏司委員長 おはようございます。

ただいまから、文教民生委員会を開会いたします。

初めに、工藤英治委員より欠席の届出がありましたのでお知らせいたします。

本日の委員会ですが、所管事務調査であります。

進行ですが、ごみ処理の現状について、市民環境部より説明を受けて質疑を行います。

その後、理事者退席の後に委員間での協議を行います。

次に学校教育部より説明を受けて質疑を行い、同様に理事者退席の後、委員間で協議を行うことといたします。

それでは、理事者より説明をお願いいたします。

○近藤賢生活環境課長 ごみ処理の現状につきまして説明させていただきます。

資料1号を御覧ください。まず当市のごみ処理施設の現状についてでございます。

最終処分場についてでございますが、現在供用している最終処分場は、平成30年度から令和14年度までの15年間で供用する計画で設置しました。

令和3年10月に実施しました残余測定の結果では、使用割合が47.6%、残余の割合が52.4%との結果が出ております。現状のままごみの埋立てを進めると、あと四、五年、令和7、8年で処分場が満了すると推測されることから、ごみ減容化対策を進めると併せ、令和4年度以降に次期最終処分場の整備に向けた計画策定を着手する必要があると考えております。

なお、最終処分場の大きさですが、国が定める基準に基づき、埋め立てるごみの量の15年分の容量で計画する内容となっております。また、こちらも資料に記載していませんでしたが、明治の敷地でございますが、最終処分場を4つ造られる広さがありまして、その土地の中に2基目の処分場に取りかかるということで計画といたしますか、予定したいという

ことを申し添えます。

続きまして、ごみ減容化策についてでございますが、ごみ処理の計画数量に比して生ごみの残渣が計画より多くなっていることから、令和3年3月に生ごみ破袋機を2台体制としました。このことによりまして、生ごみ残渣の量を半減できるものと見込んでおります。

なお、11月におきまして当初からあった破袋機1台が故障し、11月から1月まで1台で稼働している状況でしたが、1月中に部品が納品され、資料には修繕が完了する予定であるとなっておりますが、今週ですね、1月31日から正常に2台で動いている状況でございます。生ごみ残渣を減らすことで、あと六、七年、令和9、10年まで延命させることができると見込んでおります。

堆肥化率の比較でございますが、そちらの表に記載のとおりで倍の生ごみが処理できる状況となっております。

2番目の現在のごみ処理における問題点でございます。

1番目、生ごみ堆肥化処理でございますが、破袋機を2台体制にして処理を進めているが、袋また混入した異物など埋立て処理をしている実態がございます。

二つ目、埋立てごみの適正化でございますが、ごみ質調査の結果では、埋立てごみの約3分の1が資源物や生ごみといった再資源化できるものが含まれているので、こちらは啓発を進めていく必要があります。

3番目、紙おむつ類の処理でございます。埋立て処理をしていますが、最終処分場に残存する性質であることから減容処理による再資源化などを検討しているところです。また、現在おむつを大空町へ運搬して処理していますが、その費用もかかっていることがございます。

四つ目としまして、罹災ごみの受入れでございます。火災等が発生した場合は、一度に多量の廃棄物が搬入されます。コンクリートや金属くずといった廃棄物は……それ以外の廃棄物につきましては市の施設で最終処分することとなりますが、多量の廃棄物が一度にたくさん入ってきて直接埋立てするため、最終処分場の負荷が増大する状況となります。

以上の問題点から、最終処分量を減少させるためには分別の啓発を進めることと併せ、さらなる中間処理による減容を考えていく必要があると考えてお

ります。

続きまして2ページ目です。広域処理についてでございます。

近隣の自治体の状況でございますが、斜網地域、当市、そして斜里、清里、小清水、美幌、大空町では、各自治体において様々な方式で処理が行われております。各自治体においても施設の更新時期、最終処分場の状況、さらなるリサイクルの推進によるごみの減容化などの課題を抱えている状況にあります。

広域処理の必要性と有利性についてでございますが、当該地域におきましてはさらなる人口減少が予測されています。それに伴い今後は、ごみ処理量の減少も予測されることから、処理費用の軽減と働き手の確保の観点からも広域化の検討を進めていく必要があると考えられます。

また国、道の方針では、廃棄物処理施設の集約化、広域化を従来から進めており、施設の整備に係る交付金等の要件にも示されているところです。施設の整備には多額の費用を要することから、国の交付金を受けて事業を進めていくことが必要であり、広域化の検討を視野に入れて進めていくことも有利性があると考えられます。

4番目の広域処理に関する協議の経過についてでございます。

昨年12月27日に開催しました、斜網ブロックの各市町長が出席しました会議でございます。この段階で、広域処理を考えていく自治体としまして1市4町、網走、美幌、斜里、小清水、大空町ということで決定をしました。そして清里町につきましては、平成29年に既存の焼却施設を改修しており、まだ令和20年頃まで使用可能であるということから、今回からの参加はしないという回答をいただきました。将来的には参加したい意向を持っているということでございます。

そして令和4年度以降の組織の体制ですが、1市4町による協議会を設立しまして、広域処理の事務を進めていく計画としています。事務局は網走市としております。

中間処理施設の建設候補地についてでございます。

1市4町の中で廃棄物を搬入する上で、地理的に中間地点であること、また現在焼却方式の中間処理施設を有し、以前から他の自治体のごみ処理を行っている大空町を第一の候補地として打診し、検討を

進めているところです。

今年の1月13日に開催しました担当者会議についてでございます。

令和3年にですね、事前調査ということで処理施設の規模を算定したことがございました。それにつきまして、中間処理の方式を焼却と仮定した場合の焼却量の推定、そして炉の規模というのを出しています。

これは各市町の生ごみを含む、全ての可燃性ごみを搬入することを想定し最大で計算した量です。推定のごみ量としまして、1市4町で年間1万6,415トン。網走市の分が全体で42%、6,911トン。施設の規模でございますが1日16時間で62トン。31トンの炉を2つ置くような内容です。

概算の事業費でございますが、全体でこの施設を造ると99億2,000万円、網走市の負担分としまして41億6,640万円。そして交付金を使う場合ですが、交付対象の事業費が総事業費の60%と想定しまして59億5,200万円、網走市分として25億500万円。そして補助金の交付額は、交付対象事業費の3分の1となりますので19億8,400万円、網走市の分としまして8億3,500万円との試算を出しております。

次年度実施予定の事業ですが、網走市廃棄物処理検討事業についてでございますが、こちらでは網走市の次の最終処分場の構想、そして市の一般廃棄物処理基本計画の見直しを検討する内容です。

そして一般廃棄物処理広域化基本計画、そして候補地における地下水の利用、地質の調査です。そして一般廃棄物処理施設基本構想、この3つについては広域の施設に対応した業務になります。

続きまして3ページ目です。中間処理施設を市単独、もしくは広域で設置した場合の費用の比較検討です。

建設に要する経費ですが、市単独の施設を造ったとしますと46億8,000万円、広域の施設は先ほど説明した99億2,000万円の42%で41億6,640万円です。差額が5億1,360万円、広域のほうが低くなる見積りです。

維持管理費についてでございますが、施設の運転費、市単独の場合は年間9,100万円、広域の場合は8,364万3,000円、1億9,915万円の42%、差額で735万7,000円低くなる。

人件費についてでございますが、こちら15名の要員が必要ということで、単独でも広域でも7,500万円かかると。広域の場合は網走市負担分の42%で、

3,150万円。こちらで4,350万円、広域のほうが低くなっております。

用益費、こちら光熱水費、薬品等の費用ですが、単独の場合は3,027万円、広域の場合は4,964万7,000円のうちの42%が網走市負担で2,085万1,000円、こちらの差額で941万9,000円、合計で1億9,627万円が市単独でかかるのに対し、広域では網走市負担分として1億3,599万4,000円、年間6,000万円程度の差額が出ている状況です。

なおこちらにですね、その他でごみを持っていく運搬費というのが発生しますが、運搬費についてでございますが、市単独でも現在明治の敷地の中に建てる敷地が厳しく、明治以外の場所に設置になってしまうと考えられることから、運搬費につきましては広域であろうと市単独であろうと運搬する費用が発生するものと考えています。

運搬費用でございますが、ダンプカー的なものを3台用意して、そうすると年間2,000万円ぐらいの費用が広域でも市単独でも発生します。

なお、距離が長くなれば燃料費がかかっていくと思います。

この2,000万円のうちの燃料費は約400万円かかるとしてありますので、距離が長くなればこの400万円の燃料代が上がる、下がるというのが出てくると思いますが、こちらは場所等をちゃんと精査した上で改めて計算する必要があると考えております。

4番目のごみ処理に関する国の動向についてでございますが、国は2050年カーボンニュートラルを目標に掲げておりますことから、各自治体においても3Rを推進した上でのごみの中間処理量や、最終処分量を抑制することが求められてくると考えられます。

交付金の事業では、これらの動向を注視しながら交付要件に適合した施設の規模、処理の方式を検討することが必要になってくると考えられます。

最後になりますが、広域処理施設設置に向けた最短のスケジュールをこちらに示しておりまして、4年度から着手したとして、順調に進んで令和8年から工事に入って、2年間かけて造って10年から供用できるというのが、これが最短のスケジュールであり、これより短くなることは不可能ですが、長くなることも考えられる状況です。

説明は以上です。

○松浦敏司委員長 それでは質疑に入ります。

質疑ございませんか。

○**金兵智則委員** 大変いろいろな御説明いただいて、大きく分けると、網走で造る最終処分場の話と広域で今進め始めた中間処理、この2つの話なのかというふうに思いたいというふうに思いますけれども、まず最終処分場についてお伺いしたいと思えますけれども、使用割合が47.6%、令和3年10月の時点でということでありましたけれども、平成30年から始まっていますので、令和4年まで30、31、2、3……4年間で約50%弱なので、このままでいくと8年もしくは9年ぐらいでいっぱいになってしまいますよというような状況に今あるのだと、それで生ごみのあれをいろいろすれば、一、二年は延びるのかなというようなことが、説明であったのだというふうに思えますけれども、そもそもですね、来年度からこの最終処分場の検討を始めると、実質次の最終処分場と言えいいのですかね、最終処分場②と言えいいのですかね、今使っているところが①とすれば、二つ目に供用開始をいつからというふうに考えているのか、お伺いしたいというふうに思います。

○**近藤賢生活環境課長** 現在の最終処分場につきましても、基本構想に入った段階から6年間かかっておりますので、4年から始めたとして4、5、6、7、8、9……令和9年まで工事がかかって、10年の供用開始になると前回と同じペースで工事をする、そういうスケジュールになると考えております。

○**金兵智則委員** ということは、このまま何もしない状況でいくと1年間か2年間は、ごみが捨てられない状況になってしまうと……そうですね、今までの状況でこのままでいくと、令和7年か8年にはいっぱいになっちゃうよって御説明があって、令和10年からの供用開始ですので、1年か2年はごみを捨てる場所がないという計算上はなってしまうと。

ただ、それがそうはいかないので、あらゆることをして、取りあえず令和9年もしくは10年までは延命をさせて、捨てる場所がないというような状況をつくり出さないということでもいいですよ。

○**近藤賢生活環境課長** 令和9年、10年まで延命させる見込みを出していますので、そこに間に合わせるような形で進める形と考えております。

○**金兵智則委員** 多分、一番大きく響いているのが生ごみなのかなど。予定よりは多く、最終処分場に直接捨ててしまっているというところが、多く響い

ているのだということなのだと思います。

令和2年度が堆肥化になったのは27%、逆に言えば73%はそのまま捨てていますよということなのだと思います。

令和3年度に破袋機が2台になったので、54%になりましたということなのだと思いますけれども、ちなみに平成30年、31年というのは堆肥化率ってどれくらいだったのですか。

○**近藤賢生活環境課長** 30年、31年の堆肥化率でございしますが、この令和2年と同じような数字で、大体3割程度しか堆肥化ができていない状況です。

○**金兵智則委員** 生ごみの搬入量っていうのはどんな感じなのですかね。

○**近藤賢生活環境課長** 生ごみの搬入量についてでございますが、29年度が3,600トン、その後30年度が3,262トン、令和元年度も3,261トン、令和2年度につきましては3,015トンとなっております。大体横ばいといいますか、若干減っている傾向にはあります。

○**金兵智則委員** ごめんなさい、令和2年度で3,015って言いましたっけ……ごめんなさい、ここに生ごみの搬入量って、令和2年度って239万1,000……これと……なるほどわかりました。

その1年間でいくと、その分だけあったということですね。

あまり減ってはいないけれども、若干減りつつあるという感じ。逆に言うと破袋機が2台になると、これが堆肥化というのは6割ぐらいになるっていいことですか。

○**近藤賢生活環境課長** こちらは4月から12月、54%となっておりますが、この2か月ほど破袋機が壊れた期間がありましたので、こちら今2台体制で動かして、今後7割を目標に処理を進めております。

○**金兵智則委員** 破袋機が壊れる理由って何なのですかね。

○**近藤賢生活環境課長** 破袋機の中にですね、生ごみの中に衣類ですとか、破袋機の軸に絡まるようなものがあると、急停止して壊れるといった状況がありますので、入れる前に目視で確認するように注意を払って処理をすることを進めています。

○**金兵智則委員** わかりました。

衣類関係が主な原因なのですかね。固いものやってしまうから壊れやすいとかって、そういうことではなくて、そういう布とか絡まるものが主な原因

ということですか。

○近藤賢生活環境課長 すみません、主にやっぱり布製のものが絡まることが多いですが、やっぱり金属とか固い塊があると破袋機にかなり負荷を与えるので、それと積み重なりで今回も故障したというのがあります。

○金兵智則委員 素朴な疑問なのですが、生ごみって冬場に出したら、多分収集されるまでにちよっと凍ると思うのですが、そういうのって別に影響はないのですか。

○近藤賢生活環境課長 最初に始めた頃、凍ったままの大きな魚が1本だとかが入っていると、それは影響があるので目視で取り除くようにしております。

○金兵智則委員 じゃあ、家庭から出るものが凍ったって別に大したあれじゃなくて、魚が1本とかだと影響があるけれども、冬場って全部が凍りますよね。出してすぐに回収される場所もあれば、多分時間帯によってはもう朝に出して、午後の回収だったらもう冬場って生ごみは全部が凍っていますよね。そういうのってあまり影響ないのですか。

○近藤賢生活環境課長 袋に入った生ごみが多少凍っていても、完全凍結というのはないと思いますので、そういった事例の報告は特にはないです。

ただ、ごみにつきましては、当日の朝に出していただきたいということをお願いしております。

○金兵智則委員 魚が1本だと影響があって、一袋だと影響がないっていうのがよくわからないのですが、多分それも影響になっているのじゃないのかなというふうに推測ができるのかなというふうに思います。

結局のところですね、今の回収量だと堆肥化が7割ということは、30%は堆肥化できないものが出てくると。

何かこれを造ったときの、僕の記憶が間違っていたらあれなのですが、完全堆肥化を目指しますって、それができる施設ですというような話だったような覚えがあるのですが、そうじゃなかったのですかね。

○近藤賢生活環境課長 リサイクルが100%という形で造っておりますが、袋収集をしていることで、まず1割は生ごみ以外のものが出てくるのがありますし、あと2割につきましては異物ですとか、そういった破袋機に入れられないものが出てきますので、そこは100%にするという啓発を進めていくこ

とが必要なのですが、なかなか100%の目標というのが難しい状況になっております。

○金兵智則委員 今の説明がよくわからない、僕が理解できないのかどうかかわからないですけれども、袋で集めれば1割はという、生ごみの堆肥化なのですよね。それは破袋機で破る袋というのは、もともと出てくることを計算されていたので、生ごみの堆肥化を100%にするっていう話だと思うのですが、これは何ですか、そうしたらこの堆肥化率がこれになっているということは、これは袋があるから絶対100%にならないということなのですか。

生ごみの堆肥化率ですから、出てきた生ごみの堆肥化率なんじゃないですか。それは測れないのですか。もうそれは袋でドーンときているから、外袋ごと生ごみという、もう計算上にしかならないっていうことなのですか。

○近藤賢生活環境課長 すみません。搬入するときにはですね、生ごみの搬入量という形で袋に入ったまま計算します。それに対しての堆肥化率という形になりますので、その部分はどうしても差が出てきてしまいます。

ただ生ごみの投入量だとか、袋の捨てた量とか、もう1回重さを量り直せば正確な計算ができると思いますが、現状としては車でそのまま生ごみという形で量ったものに対して、生ごみの出てきた残渣を量る形で計量しております。

○金兵智則委員 そうしたら最初の御説明の中での計算は、事実上難しいのでこういう計算になっているということなのだと思いますけれども、じゃあこれが何%になったら、ほぼほぼ生ごみの堆肥化ができていうふうに計算できるものなのですかね。

○近藤賢生活環境課長 ちょっと見込みとしましては、搬入量のうちの9割がなれば、それはほぼ堆肥化した形になると考えられます。

○金兵智則委員 袋の分を除いて9割ができれば、堆肥化100%なのだという、重さもろもろの計算になるので、そういうふうになるのだというふうになりますけれども、そもそも今の段階ではやっぱり生ごみの堆肥化100%は難しい状況なのだと思いますけれども、であるならば逆に生ごみの減量化の取組というのは、これまで網走市ってあまりやってきていないような気がするのですが、その辺ってどうなのですかね。

○近藤賢生活環境課長 生ごみの減量化の取組です

が、ちょっと小さな活動になってしまいますが、今の処理施設を造る前は生ごみの処理機ですとか、コンポストに対して補助金を出して、各市民に減量に協力していただいたというのがありますが、この新しい施設ができてからはそういった補助事業をやっていない状況です。

○金兵智則委員 ですよ、知っています。

多分その生ごみが堆肥化にできるから、そういうのをやらなくていいという説明だったのですけれども、結局できないのですよね。

であれば、そういったこともやらなきゃいけなかったんじゃないかと思うのですけれども、どうなのですかね。

○近藤賢生活環境課長 生ごみの減量の仕方については、また研究して市民の皆さんの意見も聞きながら考える必要があると思いますし、飲食店におきましては今ちょっと大変な時期ですが、またお持ち帰りですとか、そういったものの協力を呼びかけていきたいと考えております。

○金兵智則委員 時期も当初とは違うので、状況もね、社会の状況も違うというのもわかりますし、市民の協力が得られるのかどうかはわからないというのがありますけれども、でもやらないと捨てるところがなくなっちゃうのですよね。

結構ぎりぎりの状況じゃないかと思うのですけれども、どうなのですか。

○近藤賢生活環境課長 あと頑張って六、七年延命させるということで、最終処分場が6年かかるということなので、そこはぎりぎりと言われれば、ぎりぎりだとは考えています。

○金兵智則委員 僕、結構せば詰まっているんじゃないのかなと思っているのですけれども、市民の方と相談して、研究をして、意外とそんな時間はなないんじゃないのかなと思っているのですよね。

やれることはどんどんやっていかないと、よくうちの会派の山田議員が言いますけれども、投げるところがなくなったっていう状況になったらまずいのですよね。もうちょっと何ですかね、前のめりと言えればいいのか、結構これはぎりぎりの状況じゃないのですか、そんなことはないのですか。

市的にはもうこれで十分なのだと。確実に六、七年まで……平成何年でしたっけ、あと六、七年、令和9年、10年までは延命できるのだと。だから、令和10年の開始までに間に合えばいいのだというスタンスなのですか。

でも計算上でいったら間に合わないのですよ。違うのですかね。

○近藤賢生活環境課長 計算上ですね、令和9年、10年までもつと。あとそれから、最終処分場の工事については6年ということで示しておりますが、実際前の最終処分場も6年、ちょっと長めの工期だったので、そこは状況を判断しながら進めていかないと間に合わないというふうには考えております。

○金兵智則委員 いや、計算上は間に合わないのですよね。僕の計算が間違っていますか。4年間で47.6%が埋まっていますと。これ単純に倍にしたら95%埋まりますよと。最後の9年目で100%になっちゃいますよという計算なのですよ。違いますかね、計算上は多分そうなのです。

前が6年かかったから令和10年供用開始でというのは、最初に答弁いただきましたよね、さっきね。そうしたら計算上間に合わないのですよ。それを何とかして伸ばさなきゃいけないのだと。生ごみ残渣を軽減することで延命できると。これは破袋機が2台あるからできますよって、また破袋機が壊れたら下がるのですよね。いつ壊れるかわからないのですよね。

その結果、4年間で47.6%が埋まってしまったのですよね。ぎりぎりじゃないのですか、これ。違いますか。その辺の認識はちゃんとしていますか。そこからですよ、まず。

○近藤賢生活環境課長 生ごみについても、あと埋立てごみについても、資源化できるものが入ったりしますので、そこは分別を徹底する事業を行って市民の皆様に理解を求めて、処分場の延命について協力を求めていく方策をとっていくことが必要と考えています。

○金兵智則委員 分別を徹底する事業というのはどういうことですか。どういうものですか。

○近藤賢生活環境課長 例えば本年度は行っていなかったのですが、改めてごみのガイドブックの全戸配布を行うとか、あと施設を見ていただいて、処理の方式について理解をいただくといった事業を展開していく必要もあると考えています。

○金兵智則委員 ごみの分別がこの新たな仕組みが始まって、分別率って言えばいいのかな、混在して分別ができていない状況っていうのってどうなっていますか、状況的に。

○近藤賢生活環境課長 埋立てごみを調べたところ、埋立てごみのうちの3分の2は埋立てごみを分

類なのですが、33%、3分の1については資源物ですとか、生ごみといったものが入っている状況なので、埋立てごみも適正に分別をしていただくということが、それも必要なことだと考えています。

○金兵智則委員 その他はわからないのですね、埋立てごみしかわからないのですね。ほかのものがどんなものが入っているのかって、例えば約8割が分別されているけれども、残りの2割はされていないのだとかっていうことは市で把握されていないのかね。

○近藤賢生活環境課長 埋立てごみ以外については、生ごみはそのまま地下に投入するのですが、資源物については手選別で分けていますので、その中では大体9割以上、95%とか、資源物については20年が経っていますので合っている状況です。

○金兵智則委員 埋立てごみが分別されていない状況というのは、この新しい分別が始まってからどのように変化してきているのですか。

○近藤賢生活環境課長 一番最初、平成30年に調べたときも、あと令和3年、去年調べたときにもやはり3分の1が埋立てじゃないというのが変わらない状況です。

○金兵智則委員 やっぱ変わらないのですよね。逆に言うと、もうわからなければ埋立てにして捨てちゃえばいいかっていうような高齢の方であったりとかは、逆に僕は増えてきていると思っています。

分別率はね、多分当初よりも若干悪くなってきているんじゃないのかなというふうに思います。それを何とかしなきゃいけないので、ガイドブックを配るといっても、いろいろなことをやっていかなきゃいけないんだと思います。

よく近藤副委員長が一般質問なんかで、ここはもっと力を入れていかなきゃいけないと多分悪くなっていきますよということね、ずっと忠告してきているのですけれども、改善されていないのですよ。その状況でガイドブックを新たに配ったら、分別率がよくなるということはまずないのですよ。だからこれはこのままいっちゃうのですよ。わかりませんか、このままいってしまいます。

生ごみが唯一、今破袋機が1つから2つに変わって堆肥化率が上がるので残渣が減ります。これ以外、多分すぐに減らせるところってないのですよ。それを何とかしなきゃいけないのだと思うのですけれども、その中であと四、五年しかもたないものを

六、七年にもたせるというのって結構厳しい話なのですよ。

これが1年前倒しで令和9年から供用できますよっていうのだったのなら、まだいけるのかなっていうふうに思うのですけれども、計算上できないことがもう先ほどの説明でできないですものね。

それを何とかしてもたせるようにして、その間に造りますよっていう、この最終処分場の話だと思うのですけれども、それって結構厳しい話なのだなということをまず認識した上で進めてほしいというふうに思います。よろしいですか。

○近藤賢生活環境課長 令和4年に処分場の……網走市の廃棄物処理検討事業で、最終処分の構想ができるのであれば、その工事の期間等についても構想の中で考えていきたいというふうに考えておりますし、そのぎりぎりの状態であるということは委員御指摘のとおりそこは認識しておりますので、そういったことを踏まえながら事業を進めていきたいと考えています。

○金兵智則委員 きちんと認識して進めていってもらいたいというふうに思います。その上で、多分その中間処理というのをいろいろと方法を考えたいかなきゃいけないという中で、この広域の協議会が始まったのだというふうに思います。

その中でちょっとお伺いしたいなというふうに思ったのですけれども、中間処理のですね、構成自治体から清里町さんが抜けましたというのがわかりました。あと事務は担当で進めていくというようなことなのかなというふうには思います。場所についても大空町さんを第一候補で話し合いを進めていくのだということもわかりました。

中間処理の方式を焼却と仮定した場合のということで、数値を出してもらっているのですけれども、この中間処理の方法を決める時期というのは、何か決まっているのですか。

○近藤賢生活環境課長 今回は通常、今この中間処理しているのは斜里町と大空町で中間処理をしまして、斜里町については燃料化施設、大空町と清里町なのですが、焼却による中間処理をしていると。そういった方式があるのですが、この方式については基本構想の中できちんと考えていく形になります。

○金兵智則委員 最後に説明してもらった令和4年基本計画というのを広域でつくる中で、中間処理の方式を焼却もしくは、ほかの方法っていうのをまず

1年間かけてそこで考えるということなのですね。

そうしたら焼却っていうことが、メインというか、そこを土台にして話していくわけではなくて、ほかの方法も含めてまず方法を決めるということなのですね。

○近藤賢生活環境課長 一番下にある施設の基本構想というふうになります、今の廃棄物の中間処理と言ったら燃料化ですとか、燃料化か焼却……一般的なのは焼却ということになりますので、その中で、この基本構想の中で考えていくという形になります。

○金兵智則委員 わかりました。

そうしたところ、そこに中間処理の方法を入れると、ごみも大分減量化されるというような考え方でいるということですよ、まず。

○近藤賢生活環境課長 中間処理ができれば相当量は減ると考えています。また今、大空町に一部おむつとか持っていつていますが、持って行った分の、大体が残るので15%といった数字になっています。

焼却した場合ですね。

○金兵智則委員 わかりました。

おむつを今、大空町さんに御協力いただいていますけれども、その影響って、この最終処分場の延命に当たってですよ、どれぐらい減量できるっていう……実績的にどうなのですか。

○近藤賢生活環境課長 おむつは今年度試験的な状態で持って行っておりますが、恐らく今ですね、夏以降に収集してきたおむつの大部分を持っていくようなことをしていますが、こちらちょっと安定した量は全体でおむつというのが、令和2年の実績で大体1,000トンぐらい入ってきているのですが、大空町へ持って行けるのは300トンから400トンぐらい。

ただ、おむつというのは、重量がそんなにないのですが、そのまま直接埋立てをすると玉の形になったまま、ほぼほぼ残るものなので300トンでも400トンでも中間処理していただければ、相当な減量効果があるものと見込んでおります。

○金兵智則委員 一旦終わります。

○松浦敏司委員長 他の委員からありませんか。

○近藤憲治委員 それではごみ処理の現状について、今日は調査ということでこれまでの経過も含めてまとめていただいて、問題点も市としての認識をお示しいただいたと思います。

全体として最終処分場の穴がですね、すごいスピードで埋まってきているという部分については、今

金兵委員とのやり取りの中でかなり明らかになったなど、危機感を持っているということなので、早急に手を打たなきゃならないという認識にも立たれていることはよくわかりました。

前提としてですね、何が問題なのかで、今生ごみの堆肥化がうまくいっていないという部分はかなりクローズアップされていますけれども、やはり一方で分別がうまくいっていない埋立てごみとして、最終的にぼこぼこ出てきてしまっているところに対して、啓発をやっつけていかなきゃならないのだというお話もされていましたが、これは相当前からずっと議論させていただいた部分で、なかなか状況としては変わっていないというのがありますね。

そこに対して、これからもまだやるのだというのはそれもわかるのですけれども、そこに対して何か新しいアプローチ、先ほど改めて分別ガイドブックを配るだとかおっしゃっていましたが、その効果はいかほどなのかと。私なんかは、町内会で地域のお年寄りなんかと話していると思うのは、もっとアナログなやり方をするしかないなと思っています。

例えばごみステーションに生ごみ出す日、埋立てごみを出す日に立ってですね、わからなかったらそのまま持ってきてくださいと。ここで私も一緒になって分けますからぐらいのことをやらないと、難しいんじゃないのかなと思っています。

なので、まずその現状、穴がすごいスピードで埋まってしまっていることに対して、可及的速やかに手を打たなければならない部分で、もっと効果的な手法を考えるという部分でどんな問題意識を持っているのか、改めて伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 ごみの分別がわからないといった方、分けてくれない方に対する対応でございますが、アナログ的な対応が必要だということですので、例えば市から広報のほうとも協議をしないとイケませんが、市の広報などでごみの分別、よく間違ふもの、間違っ出てされるものを1行とか2行とか、表紙とかに書かせてもらうだとか、何かそのアナログ的な手法についても考えていきたいと思っておりますし、ごみステーションの前に立って一つ一つ指導するというのはなかなか難しいのかもしれませんが、ちょっとパトロールとかと協力しながら、重点地域とか見ながら、啓発に向けた活動をする。また、よく間違っ出てされるものが出されるステーショ

ンには、何か大きな掲示板といますか、ポスターみたいなものをちょっと貼りつけて、分別の協力を求めるといった活動もしなければならないと考えております。

○近藤憲治委員 ここは本当に市民の皆さんにも御理解をいただいて、皆さんの財産でもある最終処分場がもうすごいスピードで埋まってしまっているの、ちょっといま一度原点に立ち返ってというのは、必ずやらなきゃならないと思います。

あわせて、現在のごみ処理における問題点としてですね、これも度々一般質問で指摘をさせていただいていますけれども、現行の最終処分場の一つ手前の中間処理施設も含めて、明治の新しい施設を造ってからさらにお金がかかるという事態になっちゃっています。

これも僕は大きな問題点だと思っていて、例えば動線が狭過ぎてタイヤショベルを何度も切り返ししなければいけない、これはもうそのまま放置されていますよね、この問題は。

あとは雑紙処理の分別をもともとは屋外でやっていて、真冬でも寒風吹きさらしの中でやっていて。ここは新たな建屋が建てられました。ただその分余分なお金がかかった。

それ以外にも監視カメラを新たにつけなければならないとかですね、数え上げれば切りがないほど、当初の計画と実際の運用を始めてからの乖離が大きくて、その分余分な予算がかかっています。

ここについては問題点だと思いませんか。書いていないのですけれども、一切。

○近藤賢生活環境課長 後から経費が追加されることは、必要な部分をまた予算につけていただくことが必要ですが、そういった後から追加しているということも問題があるというふうに考えております。

○近藤憲治委員 この計画と実態の乖離というのが、この後の仮に広域にするにしても、中間処理の焼却にしても、行政のやることに対する信頼感みたいなところにつながってくると思っています。

今回試算を出していただいていますけれども、その試算を信じるかどうかというのも前段の堆肥化が、我々はほぼ100%堆肥になりますからこの手法がいいのですと伺って、ではそういうものだったらいいですねと言って議決をした責任を負っていると思っています。

ただ一方で、現実はどうなっていないので議決してしまった我々としてもこの方法をそのまま続けて

いいのか。我々と言ったら、ちょっと全員がそう思っているのか語弊があるので難しいのですけれども、私としてはこのまま続けていくのはどうなのかという議決した責任も含めて、率直に感じているところなのですね。

そういったことから考えると、計画段階と現実の乖離の大きさ、今のごみ処理全般のすよというの、今後の議論に大きな影を落とすのではないかと考えています。この先いろんな試算を見せても、本当にそのとおりにやれますかという議論になっちゃうと思うのですよ。

そこについてはどう思いますか。

○近藤賢生活環境課長 今の施設を造って、計画との大きな乖離があることは明らかなので、そこも含めながら新しい次の施設の構想に当たっては、きちんとした調査をした上で精査しないと事業を進められないというふうに考えています。

○近藤憲治委員 今の御発言を、私は大変重く受け止めたいと思います。

やはり新しい形をつくる、これからどういう形になるかは置いておいて、やはりそこに向かっていく計画の精度が当然求められますので、私としても厳しい目で見ていきたいなと思いますので、まず現状の現実と、もともとの計画の大きな乖離については、問題意識を共有できたというふうに思います。

あわせて、広域処理に関して協議が進んでいるということで、お話を今日示していただきました。その際に中間処理の方法であるとか、また焼却という方法を選択した場合の施設は大空町にということが書いてありますが、ちょっとここについてもどういう経過でそうなっているのかという細かい部分まではわからないのですけれども、国が作っているですね、広域化、集約化に係る手引きというのがあります。環境省環境再生資源循環局というところが作ったものなのですから、こちらについてですね、ごみ処理というのは、基本これからの人口減少を考えると広域でやっていくべきなのだというのが前提になっているのですけれども、その際に当然処理をする施設にはお金がかかりますから、どこにどういうふうにするのかというのは、大きな論点になるというもうたわれています。

その際にですね、施設の広域化、集約化をするときの候補地の選定という部分で、こういう書き方がされているのですよね。

「施設建設候補地の立地によっては従来と比較し

て収集運搬距離が増加し、収集運搬費が増加する市町村が出てくる可能性があるため、各市町村からの距離に留意し、必要に応じて収集方式の工夫及び中継施設の設置等の収集運搬費低減対策を検討することを求められる。また、直接搬入時の運搬距離が増加することに対して丁寧な住民説明会が求められる。さらに施設建設候補地の選定においては、各地域を選定した場合の経済性を明確に示すとともに、学識経験者等の第三者を加えて検討を行うことで検討結果の透明性を高め、関係市町村及び住民からの理解を醸成することが求められる」と書いてあるのです。

この部分はこれまでの協議に反映されているのですかね。これからなのでしょうか、それとも。

すごくこうさらっとした議論のもとで、この考え方を今日示されているように思うのですけれども、国の手引きというのはどういうふうに反映されていますか。

○近藤賢生活環境課長 その点については、この広域化の基本計画等で考えていくこととなりますが、各市町の住民が直接搬入する場所ですとか、そういったことも各市町の一般廃棄物の処理計画でつくる必要がありますので、広域になったからといって全部広域の施設に持っていくというようなことは、そこがいいのか、悪いのかもこれから検討する必要がありますが、一般的には各市町の施設で受け入れて、そこからまとめて運んでいるというのが、ほかの先に始まっているところでは実態があります。

○近藤憲治委員 私はその部分を強調したかったわけではなくて、手法が変わると搬入距離も延びたりして費用もかかります、そういう部分には丁寧な住民説明が求められていますよってということが書かれています、この手引きには。

それから場所を選定するに当たっては、学識経験者等の第三者を加えて検討結果の透明性を高めなさいと、住民からの理解を醸成しなさいということをやっているのですけれども、今のところこれまでのこの全体の流れの中でそういう雰囲気がないですよ。ないように私は受け止めていますけれども、今後やっていくのですか。

というか、やらないといけないと思うのですけれども、どうでしょう。

○近藤賢生活環境課長 基本計画を策定するに当たっては、そういった考えが非常に重要になってきますので、そういったことも入れながら進めていかな

いと計画もつukれないというふうに考えております。

○近藤憲治委員 広域化等の集約については、そういった形で透明性とか経済性をちゃんと住民の皆さんにわかる形で議論していただきたいというふうに思います。

あわせて、今後の議論の進め方についてちょっとそもそも論を伺いたいのですけれども、最終処分場……次の穴を掘らなきゃいけないので、ごみ処理基本計画を改定するという作業が今後控えていると思います。

このごみ処理基本計画というのはある種、我が市としてのごみ処理の仕方はこうやって進むのだというごみ処理のある種、背骨のようなものになると思います。それを決めて本来であれば、じゃあこの部分は広域ですねとか、この部分は中間処理で焼却もしなきゃいけませんねっていうふうに議論を積み上げていくのが、本来の筋書きだと思うのですけれども、今の話を聞いていると最終処分場の次の穴を掘るために、ごみ処理基本計画の改定もやるし、広域化の議論もやるし、中間処理で焼却を入れる議論もやるしみたいですね、市としての背骨がないまま広域化とか焼却の議論も同時にやらなきゃいけないという、僕は極めて不安定な状態で議論が進んでいっちゃうような気がするのですが、そこについての問題意識はどういうふうにお持ちでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 市のごみ処理の関係については、市のごみ処理基本計画がまず必要になります。また中間処理の方法ですとか、そういうのも決めないと最終処分場の大きさというのも決まらないので、そのあたりも同時並行に進めていかなければならないと考えています。

○近藤憲治委員 ちょっと事の順序がよくわからないのですけれども、まず前段の答弁ではごみ処理基本計画がまず前提になるという答弁ですよ。なのだけれども、中間処理の方法も決まらないと最終処分場の形態も決まらないという答弁が後段にありましたけれども、どっちにウエイトが置かれているのでしょうか。

ちょっとよくわからないのですけれども、聞いています。

○近藤賢生活環境課長 市のごみ処理というのが一番基本となりますので、そこに合わせて最終処分場もやっていくっていうのが、まずはそこが一番最初です。

その中で広域化の検討が進めば、それも盛り込んでいく必要はありますが、まずは最終処分場を考えていくということが必要だと考えています。

○近藤憲治委員 今、認識整理させていただいたので理解しました。

その順序は間違いないようにやらないとですね、ちよつとがった見方をすれば、もう最初から結論ありきで話しているのかというふうに見られかねないと思います。

それは行政の皆さんにとっても不幸だし、議会の我々にとっても不幸だし、市民の皆さんにとっても不幸なので、やはり市民の理解を得ながら、議会の理解を得ながら話を積み上げていった結果、この施策になったのだと理解していただけるような議論の積み上げ方をしていく必要があると思いますし、そこは今の答弁で認識を共にできたと思いますので、大切に進めていただければと思います。

以上です。

○松浦敏司委員長 他の委員からありませんか。

○澤谷淳子委員 私のほうからは一つ確認したかったですけれども、紙おむつの処理で減容処理による再資源化を検討していると書かれているので、もう既に検討をしていると思うのですが、先ほどお聞きしましたら1,000トンのうち300トンか400トンで大空町で焼却に持って行ってもらって、6割か7割はそのまま埋めた形ですよ。

なので当然、この再資源化を検討しているということなので、言える範囲で結構なわけですけれども、それにはやはり機械とか予算がかかることだと思うのですよね、これも。なので、また広域でそれこそ1市4町で一緒に考えていくのか、再資源化の例えば機械とかですね、何かこういうプランはもう考えているという、検討しているというのはそういう意味なのでしょうか、どうなのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 おむつの処理についてですが、今できているプラントについては乾燥して燃料化する施設ですとか、あと洗浄してそれを乾燥して燃料化する施設ですとか、2通りの動いているものはございます。

そういったものを見ているのですが、造るにしても多額の費用がいずれにしてもかかるという状況です。

またその他、国土交通省のほうではおむつを下水道施設を通して処理するという検討も令和3年度で進められているという情報もありましたので、その

内容というのが令和4年度以降に出てくるということで、そういった中身を見ながら考えていきたいというふうに思っています。

○澤谷淳子委員 今本当に検討の真っ最中で、でもいずれにしても話を聞いただけでちょっとまた予算が必要なものだなと思いますので、本当に検討のほうをよろしくお願いいたします。

○松浦敏司委員長 他にありませんか。

○石垣直樹委員 各委員からいろいろ質問があって、細かく聞いてもどうしようもないのかなと思うのですけれども、一点だけ確認したいのですけれども、昨年の10月に使用割合が47.6%、残余割合が52.4%という計算を行ったと、測量したと、外注したと思うのですけれども、この47.6%と52.4%は単純にごみの体積なのでしょうか。

○近藤賢生活環境課長 これは最終処分場の残余なので、ごみだけではなく覆土というのもしますので、火山灰等で埋めたものも含めた形でこういう残余割合が出ています。

○石垣直樹委員 はい、ありがとうございます。

土の部分が含まれているのかどうかの確認だったので、現場の方に話を聞くと計算上はこのような数字、まだ半分以上はありますよとなっていますが、現場ではもう最終法面ですよと、もう埋まりますよというふうに言われます。

そこの現場の最終法面という話と、この数字の整合性が合わないんじゃないのかなと思うのですけれども、この数字の方が正しいということによろしかったですか。

○近藤賢生活環境課長 こちら最終処分場の図面に基づいて、測量の業者に体積測量をしているので、こちらで間違いないというふうに考えております。

○石垣直樹委員 もちろんそのように計算していると思うのですけれども、現場ではもう最初法面だと。この数字を見られると、本当にこの数字は合っているのかなと思うのが個人的な疑問だったので、間違いないということを確認させていただきました。

いろんな委員からお話がありました。もう聞いている方はわかっていると思うのですけれども、現状のこの計画がうまくいってないのは、もう市も認めているところだと思います。そこはしっかり認めた上で、次の手を考えていかないといけないと思うのですけれども、この計画は今行っている最終処分場の中間処理も含めて計画どおりにはいっていないとい

うことは間違いないということで、そこだけ確認させていただきます。

○近藤賢生活環境課長 当初の計画では100%分別という目標がありますので、そうすると埋立て処理量は年間4,500トン程度だったので、そこがうまくいってないってことは、そこは認めざるを得ない形です。

○石垣直樹委員 分別が増えて市民に多大な御負担をかけて、さらにはごみの袋も有料化して行ってきた計画が、うまくいってないということをしかりと認めた上で、次の方向に進んでいかなきゃいけない、次の方向性を示していかなきゃいけないと私は思いますので、さらなる検討、そして議員も含めたこのまちのごみ処理の未来について早急に方向性を示していかなきゃいけないというふうに認識しました。

私からは以上です。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○金兵智則委員 いろいろ出ましたので僕からあと2点、さっき出ました生ごみ減量化の事業、これを令和4年度から積極的に進めていくという考えを改めてお伺いしたいのですけれども、どうですか。

○近藤賢生活環境課長 すみません、生ごみ減量化に関しては、積極的になっていくことがございますが、さらなる啓発を進めていくしかないというふうには考えております。

○金兵智則委員 それこそコンポストヤードでしたっけ、家庭で肥料化してもらおうあいう補助事業とかっていうのももうやらずに、その啓発だけ進めていく、そのお考えで減量化にはなるという考え方ということなのですか。

○近藤賢生活環境課長 現段階ではまずは啓発ということで進めたいですが、令和4年度につきましては新しい計画をつくるので、ごみの減量化懇話会等も開催します。

そういった中で市民からの意見を取りながら、市民の方が取り組みやすい内容とかについても聞き出して考えていかなければならないと思っています。

○金兵智則委員 わかりました。

もう1点お伺いします。御説明の中でもあったと思うのですが、明治の最終処分場は1区画15年、それが4つとれるので60年使えるという、造るときもそういう御説明がありました。

最初の1区画目が15年もたないということは、計画からのずれが生じてしまったということで認識し

た上で、また新たな2区画目を始めていくという考え方だということを聞きましたけれども、この60年という年数……長期的に見たときですけれども、この60年というのはもう無理だと、この1区画目が減った分は何年もつのですかね、9年、10年までもてば10年か11年使うと。

ということは、4年か5年は短くなった。明治は55年間使うというお考えなのか、2区画目以降は15年というのを延ばしつつ60年までは使いたいというお考え、その辺の長期的な部分ではどのようにお考えなのかをお伺いしたいというふうに思います。

○近藤賢生活環境課長 当初の計画では15かける4ですが、2つ目を造るとき、仮に何も中間処理をしないと大きくなりますので、そうするとまた期間が短くなりますし、中間処理をするということになれば今の処分場より小さくなるということも考えられます。

当初の60年をやはり目指すというか、そこは目標に進めていくこととなりますが、次に造る2期目についても想定される埋立てごみの15年分で造ることになりますので、現在のままでいけば60年は使えないですが、何らかの中間処理が今後出てくるのであれば、そこは変わってくる内容になると思います。

○金兵智則委員 そもそも1区画、今までのやり方でも15年は使うということで、さらにさらに中間処理が加わるということなので長くなるという考え方もできるのかなと思いますけれども、そもそも15年は1区画目を使えなかったということなのですから、やっぱりこの60年使うというものについては、やっぱり目標として持ってしっかりと2区画目以降は少しでも1年でも長く使っていくのだということ踏まえた上でないと、やっぱり中間処理の方法だとかもいろいろと変わってくると思いますし、考え方も変わってくるのだと思います。

あと、さっきからちょっと聞いていて気になるなというふうに思いますけれども、中間処理の方法が決まれば15年の区画が小さくなると。例えば焼却すれば、ごみが小さくなるということなのだと思うのですが、でもそもそもやっぱり最終処分場は造っていかなきゃいけないのですよね。

それにこの広域でやる中間処理が間に合うか間に合わないかは微妙なところ……さっき近藤委員も多分言っていたと思うのですが、多分最終処理

午前11時12分再開

は造るのだけということ、まずあってからじゃないと間に合わなくなったら困るのですよね。

中間処理の方法が、もしかしてどこかの段階で決まって、それが何年度から稼働するから本当はここまで掘らなきゃいけなかったものが、ここまででよくなるよってということになるということなのですかね。その辺、何かさっきから聞いていると、最終処分場を造って中間処理の方法も決まれば、じゃあもう中間処理の方法も決まっているみたいな言い方にも聞こえなくもないというふうに思いますけれども、それって違うのですよね。

最終処分場はもう造り始めないと間に合わないから造っていくのだと、始めますと。どこかの段階で掘る量を変えられるのか、変えられないのかはわからない、僕もちょっと前回の6年間を覚えていないのであれですけども、変えられるものなのか、何かすごいふわっとしているのですけれども、最終処分場はもう造り始めないともう間に合わないのですよね。

僕も一番最初に言わせてもらったけれども、このままじゃ間に合わなくなるのですよね。そこに中間処理がもしかしたらいい方向で絡まってくるのかもしれないのですけれども、そこって並行的に進めながらも、でもこっちは優先して造らなきゃいけないのですよね、最終処分場のほうはね。

中間処理の方法が決まるのを待つとか、そういうことも含めて令和10年ということをやっているのですか。

○近藤賢生活環境課長 最終処分場ですが、交付金を利用する場合は中間処理後の中間処理をした場合、していない場合、そういった形での容量計算が求められますので、そこは決まらなるとなかなか進めるのは難しいです。

交付金を使わないとなった場合は、現状の埋立て容量に応じて設計をしていくことになると思います。

○金兵智則委員 ということは、中間処理の方法が決まらなると最終処分にはかかれなるといことになるのですか。

これ、ちょっと時間的スケジュールなのですけども、じゃあ中間処理の方法が決まるのはいつなのですか。令和4年度、1年かけて計画をつくったら、そこで中間処理の方法は決まるのですか。

○松浦敏司委員長 暫時休憩します。

午前11時09分休憩

○松浦敏司委員長 再開いたします。

○近藤賢生活環境課長 網走市の最終処分場の関係でございますが、網走市の廃棄物の処理計画としましては、リサイクルを……3Rを進める、また生ごみを堆肥化していくという中身があります。

そういった中でどうしても残ってしまうもの、それが今現状としてありますので、それも減容化について中間処理というのでも並行して考えていく必要があるのですが、交付金をもらって事業を進める必要があると考えておりますので、現状の埋立て量をベースに考えていくのですが、さらなる減量化というのでも併せて考えていく必要があります。

そういった中で、まずは網走市の計画をきちんと決めた上で、最終処分場のほうも手がけていく。並行して、残ったものを減らすための中間処理についても検討していくことが必要という形で考えております。

○金兵智則委員 取りあえずは、これまでの方法を踏襲した内容で、最終処分場の2区画目を造っていくための事業をスタートするということですかね。

その中で最初の計画の中で、100%の生ごみの堆肥化とかということもできない状況なので、残る部分に関しては、中間処理の方法を並行してというか、広域の中で検討していくと。

最終処分場を造るに当たってはもう今をベースにしているけれども、もしかすると中間処理の話の中で、何か捨てるものが、焼却灰とかっていうものが加わったりする可能性はあるけれども、今2区画目は、今の流れの中で取りかかっていくということでもいいですよ……違うのかな。

○近藤賢生活環境課長 まずは、今の現状に対して構想をつくっていくことが必要だと考えております。

○金兵智則委員 何となくわかりました。本当にわかったかと言われればあれですけども、何となくわかったというふうには思います。

ただ、時間がなということだけは理解していただきたいと思っておりますし、きちんとした進め方をしていてもらいたいというふうに思います。

これはお願いをしたいというふうに思います。

以上です。

○松浦敏司委員長 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、理事者を入れての議論はこの程度としてよ

ろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、理事者退席のため暫時休憩いたします。

再開は11時25分といたします。

午前11時15分休憩

午前11時26分再開

○松浦敏司委員長 それでは再開いたします。

理事者を入れての質疑が相当よい議論になったかと思いますが、ここで各委員からの思いや課題についてそれぞれ思っていることを述べていただいて、その内容については正副で預かって論点整理を行って、今後の所管事務調査に生かしていきたいと思っておりますので、それぞれ出していただければと思います。

○金兵智則委員 思いや課題ということで委員長から言われましたけれども、そもそもちょっと危機感のなさに、僕自身はちょっとびっくりしたなというふうに思います。

そもそも計算上ではもう間に合わない状況なのにも関わらず、どうも何かのんびりしているというか、何か確実にもたせる方法が実は隠れているんじゃないのかという疑念を抱かされるぐらい、ちょっと危機感がないなというふうには思いました。

そもそもやはり課題としては、今のものを最低でも令和10年まで延命させる方法というのは、やはり課題としてあるのかなというふうに思います。

その他については、中間処理の方法というのは広域でやっていくのだというふうに思いますけれども、それは完全に議会として任せてしまっているのか、いろいろと議会の委員会の中でもいろいろと調査をしていく必要もあるのかなというふうにも思っております。広域でやる中間処理の方法についても、研究していったいいのかなというふうに思います。

あとは、そもそも最初の計画っていうのを、もう一度精査してみてもいいのかなというような気がします。もう計画が大きすぎていて、本当にどれほどずれているのかっていうのも、精査してみる必要があるのかなというふうに思います。

以上です。

○澤谷淳子委員 やはり、先ほどのいろんな計画を考えているのでしょうかけれども、近藤委員もちょっとちらっと言っていたのですが、本当に大空町の焼却炉を1市4町でそこを使っていくのが決ま

りかけているような印象を私も受けたのですが、例えば最新の焼却炉を造ることを考えたとか、そしておむつでも何でも燃えるようにしっかり燃えるようなものをもう1回考えるとか、何かちょっともう少し考える面があるのかなと。ただ、何かもうそれが決まってしまうのかしらというところがちょっと気になりましたので、よく検討していただいております。

○石垣直樹委員 単純に現状の計画がうまくいっていないのであれば、大幅な計画の見直しを図って早急に対応していかないと間に合わないということが今日の所管事務調査でわかったと思っておりますので、答弁を聞いていると現状の計画を何とか引き延ばしてやっていこうと考えている、そこからもう変えていかなきゃいけないのではないかと思います。

○近藤憲治委員 それでは、私からもお話をさせていただきますけれども、やはり今のごみ処理の手法が様々な課題があつてうまくいっていないという部分は、今日委員の皆さん同じ感想というか、受け止めがあつたのかなというふうに思っています。

やはりうまくいっていない理由、今日のやり取りの中で、その原因に似た部分も明らかになっていましたけれども、やはり何が駄目なのかという部分を掘り下げていくこと、それから金兵委員がおっしゃっていましたが、もともとの計画とどれくらいの乖離があるのかということも少し見える化すること。これは委員会サイドとしてもやっていく必要があるというふうに思っています。

あわせて、このまま放っておくとすごいスピードで埋まってしまいます。そこも今日共有できたのですけれども、一方でいかに延命していくのかという部分で、今日答弁では啓発しますと。一本やりでしたけれども、やはりそこは少し知恵の絞りどころなのではないのかなというふうな印象を持ちました。

きつと委員の皆さんも、それぞれの立場で情報収集されているかと思っておりますので、どういった形であれば現状の処理方法の中で最終処分場を延命できるのか、ちょっとクリエイティブな議論もですね、この委員会の中でできればいいのかなというふうに思っています。

あわせて、広域化それから中間処理、この部分についてはかなり丁寧な議論をしていかなければならないという印象を持ちました。

特にですね、先ほど場所の件、少し質疑の中で触れましたけれども、本来広域で中間処理、焼却施設

として建設する場合、本来であれば人口が最も多いところ、輸送コストがかかりませんから、建設地が選定をされるというのがよくあるパターンであります。

また、環境省の手引きの中でも施設建設候補地の選定例として、関係市町村間で最も人口が多い市町村に施設を整備という例をはっきりと書いております。

そういったスタンダードな考え方が示されている中で、今日の資料の中では大空町という具体名が上がっていると。ここに対しても、まだ本決まりではないし、そもそも中間処理焼却なのかっていう議論も当然あります。

また、場所として大空町が望ましいのかという部分もあり、我々サイドとしてもですね、少し丁寧な調査、議論が必要だなという印象を持っているところであります。

以上です。

○松浦敏司委員長 今委員からそれぞれ意見を出していただきました。

正副のほうで皆さんの意見をしっかりまとめて、論点を整理して、今後の所管事務調査に生かしていきたいというふうに思いますので、今日はその辺でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、そういったことで、今日の処分場についての委員会については、終了することとし、次に、次の日程の関係で、学校教育の審査がありますので、暫時休憩いたします。

午前11時35分休憩

午前11時35分再開

○松浦敏司委員長 それでは、再開いたします。

次に学校教育部に入ります。

学校給食について、理事者より説明をお願いいたします。

○高橋善彦学校教育部参事 それでは、資料2号を御覧願います。

こちらは、令和3年8月27日に開催されました文教民生委員会の所管事務調査以降、学校給食を継続して安定的に運営できる体制づくりに係る進捗状況について記載したものでございます。

まず、学校運営協議会等での説明でございますが、校長会を通じまして学校運営協議会開催の際に、給食提供体制について説明の時間を設けていただくようお願いをしていたところ、南小学校、第一

中学校、中央西地区の三つの学校運営協議会よりお声がけをいただき説明を行ってまいりました。

その中で、調理場の集約化に関して反対する御意見はございませんでしたが、一部の方から調理業務の委託については慎重にという声をいただいたところでございます。

今後もお声がけいただいた学校運営協議会での説明は継続してまいります。

そのほか、昨年11月には学校給食を考える懇話会、また先月には学校給食運営委員会の中で給食提供体制につきまして説明を行ったところでございます。

次に給食調理員の募集についてでございますが、昨年の8月以降、昨日までに3回の募集広告の折り込みと市の公式ツイッター、フェイスブックへの掲載、またFMあばしりの中でも募集をしてきたところでございます。しかしながら、このような媒体を通じて実際に応募される方は残念ながらおらず、ハローワークの求人を見て応募された方がほとんどでございました。引き続き内容を工夫しながら、募集広告やSNSを活用し募集を行ってまいります。

次に学校給食に関するアンケート調査でございますが、昨年の8月30日から9月13日までを回答期間としまして、学校給食について味や量などについてどのように感じているかを、小学5年生から中学3年生までの児童生徒を対象に1人1台端末を活用し、調査を行ったところでございます。

調査の結果につきましては、資料3号を御覧願います。

設問内容は市の栄養士と栄養教諭の検討の上、量について、味について、温度について、給食への期待、行事食についての5問としたところでございます。回答は対象となる児童生徒のうち、1,226名から回答がございました。

調査の結果を見ますと問1の量、問2の味、問3の温度につきましては、ちょうどよいという結果が多数を占めているところでございます。

問4の給食への期待については、おいしさが多くなることは想定されたところでございますが、メニューの多さより、安全性や栄養バランスを選択する児童生徒が多かったのはちょっと想定外でありましたが、これは学校での食育や栄養指導の成果の現れであると考えられるところでございます。

問5の行事食については、やはり網走和牛ハンバーグ給食が圧倒的人気で、次いでくじら給食となっ

ております。残念ながら野菜の日給食については、この中では少数でございました。

この結果につきましては、栄養士、栄養教諭等と情報共有をしながら魅力的な献立作成に生かしていくものでございます。

次に資料の2ページ、3ページにつきましては、この結果を自校に調理場を持つ学校と運ばれてくる学校に分けて集計したものでございます。

量や味、温度についても、全体の集計と同様の傾向となっておりますが、温かいメニューの温度で、調理校で冷たいという回答が10%に対しまして、受配校では7%と少なくなっております。また、熱過ぎるという回答も受配校のほうが高い数値となっております。当然感覚には個人差はあるところですので、結果が全て正しいということではございませんが、引き続き適正な温度管理に努めてまいりたいと考えております。

以上がアンケート調査結果の概要でございますが、今後も定期的に調査を継続し、安全で安心な学校給食を安定的に運営できる体制を構築してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○松浦敏司委員長 それでは質疑に入ります。

質疑ありませんか。

○金兵智則委員 御説明をいただきました。

説明会があって、アンケートをとったのだということは理解させていただきます。

それでちょっとお伺いしたいのは、網走市学校給食を考える懇話会、それと学校給食運営委員会という会議を行っているというのはわかったのですが、何かそこで給食関係の話はどんな話が出たのかなと思ひまして、何か主要なものが何かあればお示しいただければと思うのですが。

○高橋善彦学校教育部参事 まず学校給食を考える懇話会ですけれども、11月に開催される前にもですね、7月であったかと思ひますけれども、そちらのほうでも、この集約化につきましての御説明はさせていただいたところでございます。

この11月に行った第3回目の給食を考える懇話会につきましては、今後の市の取組と申しますか、方向性といったところを説明させていただいたところでございます。また先月の学校給食運営委員会につきましては、今後の市の考え方と申しますか、このような形で集約化していきたいというような説明をさせていただいたところでございます。

その中で特に御意見と申しますか、こうしたらいいのではないかとか、そういったようなものは特にございませんでした。

○金兵智則委員 ちなみに今後の方向性というのは、今聞いても大丈夫なのでしょうか。

○高橋善彦学校教育部参事 方向性につきましては、かねてから御説明を申し上げてきたとおりですね、学校給食を安定的に供給したいというところから、集約化を進めていきたいという考えでございます。

○金兵智則委員 集約化の方向性は失っていないよという、それはいつと申すということではなくて、今後の方向性的にはそういう感じだよという御説明をしたということですよ。

それで理解していいですよ。

○高橋善彦学校教育部参事 委員おっしゃるとおりでございます。

○金兵智則委員 ちょっとアンケートについてお伺いしたいのですが、アンケートの回答が……ごめんなさい、僕がちょっと聞き間違っていたら申し訳ないです。1,226人だったかな……回答がありましたということとをさっき御説明いただいたと思うのですが、これは小学校5年生、6年生、中学と。小学5年生から中学3年生までだと思うのですが、児童生徒の人数的には全員なのですか。

○高橋善彦学校教育部参事 こちら5月1日現在の児童生徒数になりますけれども、小学5年生から中学3年生までで1,313人となっておりますので、回答が1,226人ですので、回答率としましては全体で93%程度でございます。

○金兵智則委員 この手のアンケートって、これまでもやっていたのでしたっけ。

○高橋善彦学校教育部参事 こういった形ですね、全体を通してというものは、私が記憶している中ではないと思っておりますけれども、各学校においてですね、栄養教諭がですね、聞き取りをしてとかというところは、今までにもあったということは伺っております。

○金兵智則委員 わかりました。

今までは、教育委員会として取りまとめてやっていたことはない。各学校ではやっていたという感じですが、このアンケート結果、さっきこんな状況です、こんな状況ですという御説明もありましたけれども、全体的に見て、アンケートやって

みて、どんな評価というか教育委員会としてはどのように考えているのかお伺いしてもいいですか。

○高橋善彦学校教育部参事 量ですとか味については、大体おおむね、このような結果が出るかなというように想定はされていたところでございますけれども、一方で先ほど御説明しましたけれども、温かいメニューといったところで大半はちょうどよいところですけども、一方で熱過ぎるですとか、冷たいといった意見も少数派ですけども、あるというところは認識した上で、例えば食缶ですとか、そういったところも変える必要があるのかですとか、そういったところもひとつ検討材料になるのかなというふうに考えております。

また給食に期待するところというところでは、先ほども説明しましたけれども、やはり安全性ですとか、バランスというところも児童生徒は重視しているのだなというところが見えたかなというふうに考えております。

○金兵智則委員 わかりました。

温かいニューでね、受配校が熱すぎるとか、冷たいメニューで作っているところがぬるいというものなんかちょっとね、微妙だなんていう感じもしますが、これは子供の感覚ですのですね、こういう事実が改めてというか、きちんと出たという感じもありますし、あとこれ僕らに見せていただけたときには調理校、受配校ということで分けてはいますが、それこそ教育委員会的には各学校ごとのデータなんていうのも例えば持っていたりというか、これはたしかクロームブックでやっているのですね、データとしても残っているはずなので、やり方としてはもしかするとね、これ全体だとうただけけれども、例えば熱すぎると出たのはこの学校が多かったとか、冷たい、ぬるいとかっていうアンケートが出たのは、実はこの学校でちょっと多かったなとかっていうことは、僕らにはこれで示されていないですけども、教育委員会には把握できる状況なのですよ。

○高橋善彦学校教育部参事 おっしゃるとおりですね、それぞれの学校別の回答状況は、市教委として把握しておりますので、全てわかる状態でございます。

○金兵智則委員 その中でね、アンケート結果っていうのが活かされていけるのかなと。これ全体で見ると微妙だなんて見るところもありますけれども、それぞれ個別で見ればいろいろと見えてくるこ

とも僕はあるんじゃないのかなって思いますので、その辺についてはもう1回精査をしていただけたらなというふうに思います。

とりあえずこの御説明に関しては、僕的には以上です。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○近藤憲治委員 それでは、私からも伺わせていただきます。

給食調理員の募集をこの間に4回されてきたということなのですが、網走市全体の給食調理員の定数を充足した瞬間というのは、この間にあったのでしょうか。

○高橋善彦学校教育部参事 今年度につきましては、年度当初から欠員が続いておりまして、今現在につきましても欠員が生じている状況でございます。

募集をしてそこで就職といいますか、あるのは事実なのですが、実際にはまた退職されるという方もいらっしゃいますので、常に欠員が続いている状況でございます。

○近藤憲治委員 この学校給食の提供体制をめぐる議論の中で、やはり大きな論点になっている部分だというふうに思っています。

あわせて、やっぱり小規模校ほど調理員さんの欠員が出ると大変なので、多分網走市の学校給食調理現場全体でうまくバランスをとりながら、回していってらっしゃるのかなというふうに思います。

この間も、ちょっと私は小規模校の現状をずっと気になっていまして、校長先生や教頭先生に定期的にお話を伺わせていただいているのですが、小規模校には大きな調理場からなるべく欠員が出ないように調理員さんを配置して、何とかバランスが保たれているという現状だというふうに受け止めています。

つまり、その大規模な調理場では常に欠員が生じていると、結果的に……というふうに受け止めていますけれども、そういう認識でよかったですか。

○高橋善彦学校教育部参事 おっしゃるとおりですね、人が多い大規模調理場のほうからですね、ある程度調理ができるベテランの人間をですね、小規模校へ配置換えをして、大きい調理場のほうに新しく入った経験のない方を入れているという状況が続いているという現状でございます。

○近藤憲治委員 今の答弁から伺い知れるのは、やはり小規模校の調理場を何とか支えるために、網走

市の学校給食提供体制全体で見渡すと、やはり不安定な状態がまだ続いているというふうを受け止めさせていただきました。

以上です。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

○金兵智則委員 今日は所管事務調査なので、どこまでやり取りをしていいのかわからないのですけれども、今後の方向性として集約化をいつ始めるのかもわからない状況なので、やり取りをどこまでしていいのかわからないのですけれども……。

一つだけ質問させていただきたいなと思いますけれども、今後その集約化の方向性に向けて進んでいく中で、これまでと変わったような状況というか、新たに集約化をしていこうという中で、これまで議会に説明した中で、何か変わったことって何かありますかね。

○高橋善彦学校教育部参事 変わったところということでは、当然事業費が変わってくるというのは、当然資材費の高騰ですとか、そういったところはあると思うのですけれども、そのほかに当初から考えますと男性用の更衣室ですとか、そういったところを新たに前の計画にはなかったところとして、考えているところがございます。

また当初委託というところでも考えておりましたので、そういった面で委託というのは、今回一旦考えないというようなことで計画を進めていますので、それに伴いまして実際に当初で考えていなかった車両の車庫の設置ですとか、そういったところも考えられるところがございます。

○金兵智則委員 委託を外しました……その結果車庫が必要ですよという説明、多分もうどこかでされていますよね、今までも聞いています。

それと男性更衣室を新たについてというのは、たしか前の予算のときにも、たしか男性更衣室の話は入っていて、あれですよ、今回議会のほうで採択されなかったのが男性用の更衣室はできませんでしたって、どこかの中学校の説明会で部長がおっしゃっていたと思うので、それは男性更衣室の話はもともとあったのだと思うのですよね。

そうしたら、特に僕らが今のところ説明を受けている中で、新たな変化というのはないという理解でよかったですかね。

○高橋善彦学校教育部参事 申し訳ございません。

2回言ってしまったようなことで申し訳ございませんが、その他にですね、直接集約化に関するところ

ろではございませんけれども、今現在小規模校で例えば養護教員が担っている給食事務についてですね、これを新たに給食事務員といったような形で入れたいなというふうには考えているところが、今までにはなかったところかなというふうに思っています。

○金兵智則委員 わかりました。

給食事務員っていうのが新たに入れたいなという、これは小規模校にという意味なのですかね。今はない、養護教諭が担っているところに給食……何でしたっけ、給食事務員さんをいつ頃からとってあるのですか。その辺はどういう考え方なのですか。

○高橋善彦学校教育部参事 具体的にはですね、白鳥台小学校、呼人小中学校というふうに考えておりますけれども、できれば早い段階で、来年度にもしできれば入れたいなというふうに考えております。

○金兵智則委員 白鳥台、呼人なんかは来年度から、もし予算が通ればという感じなのかなと思いますけれども、今まで養護教諭が大変だ、大変だと言っていた部分に関してはまず解消されるのだなということが、とってもいい方向なんじゃないのかなというふうに思います。

そのほかですね、ここで詳しい話が出ていないので、やり取りをしていってもあれですけども、ちなみに一つだけ最後にちょっとお時間もあれなのでお伺いしたいのですけれども、学校給食の将来像というのは、網走市ではどこかに何か明記されているのでしょうか。

○高橋善彦学校教育部参事 それは計画ですとか、そういったようなところのお話ではないかなと思いますけれども、計画の中にですね、学校給食の将来像といいますか、こうあるべきというところの明確にうたったものはないというふうに認識をしております。

○金兵智則委員 多分この学校給食の話始めてから、小規模校が不安定だ、今でも不安定だよという話は先ほど副委員長のやり取りの中でも聞いていたのですけれども、結局のところなんでしたっけ……2人同時に休まざるを得なくて云々かんぬんというのも、どこかのマスコミが調べたら資料が残っていないから本当かどうかはわからないけれども、それがあったと言っている人もいるから、多分本当なのだろうという、それがそもそもの基本みたい、それがあったからみたいな話がありましたけれども、そ

れが本当かどうかよく証明できないといったような中で、ただその事実として不安定さもあるのでしょう……多分あるのだと思うのです。

ただね、今後の子供の数は間違いなく減っていき、そして給食調理員として働ける……なんでしたっけ、労働人口でしたっけ、の割合も減っていくのだと思うのですよ。その辺も加味した中で、その給食が今後どういう方向に向かっていくのかというのが多分見えないから、僕らにもね、伝わってこない。伝わっている人はいるのだと思いますけれども、僕には伝わってこないのです。

結局ですね、今のこの集約化をしたい、したと言って、工事でお金をかけたという説明を受けたときに、マラソンコースが決まっていなくて、多分ここを走るの、ここをちょっと舗装させてくださいと言われてるようにしか聞こえてこないのですよ。本当に通るのかどうかもわからないのに、マラソン大会を開くので道路舗装をさせてくださいよって……いやコースが決まってから舗装をもう1回考え直したらって僕は思うので……僕はじゃないですね、僕は思うのですよ。

だから、その学校給食が将来に渡って継続して安心……よく言うじゃないですか、安心、安定的に子供たちに給食をやっていくのであれば、こういう方向です、子供たちがこう減っていきます、労働人口がこう減っていきますよ。ただ、やっぱり給食を安定的にやっていかなきゃいけないので、網走市の給食はこの方向でやっていきます。

ぶっちゃけて言えば、ほかの町ではね、給食基本計画なんて持っている町は結構いっぱいありますよね。見ているのか、見ていないのかわからないですけども、僕もちょっといろんなところを見せてもらいましたけれども、そう言った流れの中でさっきのごみの問題、計画をつくったけれども、その通りにはいっていないよ、なんていう話もありましたけれども、ただあるからこそ、その通りにいっているのか、いっていないのかかわかるのですよ。何も無いのに、今の方向性が合っているのかどうかって、だから判断できないのですよ、僕はね。ほかの人はわからないですけども。

そういったものを考えていかないと、これって学校給食の将来にわたって、進んでいけないんじゃないのかなと思うのです。

公会計の話もそうですし、多分公会計なんてどうなっていますかっていっても、まだ多分進んでい

っしやらないのだと思います。それも含めて、学校給食の未来像ってこうなのだよっていうものを示さなければ、集約化だけしたいのです、委託は外しましたって言われても、ちょっとわからないですよ。

どうですかね、何か答弁できたらしてもらってもいいのですけれども、せつかくいらっしやいますから。

○岩永雅浩教育長 網走市の給食に関わるビジョンが見えないという御指摘だというふうに思います。

先ほど参事から説明したとおり、計画なるものは網走市では持っておりませんが、10か年の計画としては、学校教育計画の中でどうしていくのかということ示していますが、個々具体的なですね、子供が減ることによって、給食を今後どうしていくのかということまでは、まだ踏み込まれていないというのが実態だと思っています。

一方で、国では学校給食法で定められた水準であったり、子供が減ったとしても役割については明確にされていますので、それを達成するための体制ある仕組みは当然つくっていかなくちゃいけないというふうに考えておまして、一昨年からですか、小規模校の実態に合わせて、それはビジョンに伴ってということではなくて、置かれた状況を何とか改善したい、あるいはそこで起きている事象を解消したいということで提案してきているものでございます。

今後につきましては、先ほど金兵委員から言われたように子供の人口がどうなっていくのか、あるいは労働力人口がどうなっていくのかを含めてですね、検討していかなければいけませんし、具体の課題としては公会計をどうしていくのかということについては、PTAで雇用されている方たちの処遇も含めて方向を定めなくちゃいけないと思いますので、例えばこれが1年とか2年でその方向感を定められるのか、できるのかどうかということも、今の段階では私にはちょっと想定できないのですけれども、課題としては同様の認識でいるということでございます。

○金兵智則委員 同様の認識でいていただけるということであるならば、やっぱり示していただきたいと、すぐ示せといたって結構長くかかるものだと思います。

ただ、そういう中で示していかないと、今の現状の状況を改善するためにやっていくんだというふうに今教育長おっしゃられましたけれども、多分そうなると思うのですけれども、結局最初の頃の御説明

であった事象は結局ね、データとしては残っていない、資料として残っていない、本当にあったのかどうかはお示しできないというそこが根底のところも、結構最初の頃はそこが最初の土台の話になっていたの、そこからスタートしているところもあるので、本当なのでしょうけれども、本当かどうかはわからないものに対して、本当にこんな高額な金、そして将来的にもしここでかけたお金が無駄にならないのかどうなのかという自信も、議決する立場としてはできなかったというところもあるのだと…ごめんなさい、思いますと言ったら駄目ですね、僕はそうでした。

ですので、そういった方向性を示していただくのがまず第一歩なのかなというふうに、僕は思っています。

もうお昼になりますので、これで終わりたいと思います。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、なければ理事者を入れての質疑についてはこれで終了いたします。

暫時休憩いたします。

午後0時04分休憩

午後0時05分再開

○松浦敏司委員長 再開いたします。

理事者を入れての議論がいろいろとありました。

それで先ほどのごみ処分場と同様に、もし委員の中から今後について率直な意見などがあれば出していただいて、正副でその点の論点を整理していきたいというふうに思いますが、もしあれば意見を出していただきたいと思います。

○金兵智則委員 論点整理をしていただくものなのか、どうかはわかりませんが、僕の一個人の意見として述べさせていただいた部分が、今回の私自身の意見としては全てなのかなというふうに思いますけれども、何ら変わりのない集約化の話がまた出てくるようなことがあるのであれば変わっていないので、変わっていないのだなというふうに思いますし、やっぱり将来的な給食の……本当はね、学校全体のこの中に給食を入れてもらった、学校の将来像というのを出示してもらうのが一番いいのかもしれないですけども、さすがにすぐそれを出すというのは多分難しい話だと思うので、給食の方向、ビジョンと言えいいのですかね、将来像というのが示されていく必要が僕はあるのかなと。

僕の意見ですけども、そんなところですよ。

○近藤憲治委員 こちらのテーマも昨年からです。昨年からといいますか、さらにその前からかなり議論をさせていただいて、議員の皆さんもそれぞれの関心をお持ちの議論をこれまで重ねてきています。

今日、金兵委員がおっしゃっていたビジョンが見えないという御指摘は、私も過去の委員会で発言をさせていただいて、同じような考え方を持っています。

当然、教育委員会が所管部門ですから、教育委員会としてこういう考え方だということを示すという必要があるというふうに思いますし、併せてやはり我々議会としてというか、この委員会でもいいのですけれども、委員会としてはこういう給食の在り方を望んでいるのだというような議論も深めていく必要が、本当はこれまでの時間を使ってやればよかったのかもしれないのですけれども、なかなかそこがまだやり切れていなかったなというふうにちょっと反省しているところです。

私としては様々な給食の調理の手法ですとか、提供の手法を全国各地の事例と学ばせていただいて、よいところ悪いところ、可能性がありそうな部分等々の認識を深めさせていただいていますけれども、委員会として網走の学校給食というのはこういう在り方が望ましいのだというビジョンというところとよとなかなか仰々しいのですけれども、少なくともこういうのは大事だよ、みたいな議論が少しできればいいのかなというふうに思っていますが、委員の皆さんはいかがでしょうか。

あまり難しく……全体的なというよりは少なくとも、ここのプライオリティーは高いよね、というような部分でもよろしいかと思います。

○澤谷淳子委員 今後の学校給食の……私個人としては、先ほど高橋参事も言っていたらっしゃいましたが、集約化に関してはもうそろそろ市民の皆さんはもう十分わかっているなというのは、そういう感じに受け取りました。

やはり私も集約化をしていったほうがいいと今も思っています。

ただ、調理する人は変わらないのだけれども、やっぱり民間にというのが、そこがすごくネックだったのですが、できるかどうかはわからないけれども、人繰りの部分は、例えばそこだけは人材派遣会社に入ってもらって、常に人材を管理してもらおうと

か、いろんなことも含めて集約化をぜひ進めていていただきたいと今も思っています。

○松浦敏司委員長 ほかにありませんか。
ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

皆さんから、率直な意見も…。

○近藤憲治委員 澤谷委員が学校給食の調理現場の考え方でいったら、集約はプライオリティーが高いですね、というようなお話だったと思います。

ただ金兵委員の先ほど発言でいくと、目先の状況としてそこはそこでわかるけれども、やはりその先どういうふうに進むのかという部分が、もう少し議論が深まっていかないと、市民的な理解が得られないんじゃないのかなという御指摘で、やはり何といえますかね……これ政策ですから、一つの。

最終的にどこへ向かっていくのかというのは、完全に示されていないにせよ、やはりあらあら考えてあって、そこから逆算するとまずこの手なのですよ、という説明が不可欠ですので、そこは私としては、網走市……この委員会としてとかですね、この私としてはみたいな感じで、給食の調理体制としてとか、給食の提供体制としてどうあるべきなのかとか、どういうのが望ましいのかという議論を深める場を今日じゃなくてもいいのですけれども、ちゃんとやったほうがいいなと思っています。

○金兵智則委員 できればね、やれるのなら、3月の議会までの間にヘビーローテーションでもいいですから、毎週になるのかどうかはわからないですけども、やっていったほうが僕もいいと思います。

さっきの澤谷委員の話でいけば、民間で人材派遣のところで上げてもらったら、そこに協力してもらえばいいんじゃないのかなという話もありましたけれども、それをやったら集約化をしなくても人材が集まっちゃうのだなというような気もしなくもないですけども、優先順位の決め方ですので、それはそれぞれの個人的な意見があるのかなというふうに思いますし、やっぱり将来的に高いお金を出してやらなきゃいけないものの中に、こういう方向に向かっていくから、今これをやるのですっていう……さっき近藤副委員長も言ってもらいましたけれども、そこがやっぱり最悪ないと、やっぱり僕は個人的にそこがやっぱり一番大事なところなんじゃないのかなと。

やった方がいいけれども、南小学校が何年後かに無くなりますよ、なんてことはないと思いますけれど

も、例えばの話でいけばですよ、その目先のやり方をやっていった段階で変わってしまう。でも将来的に子供の数を見たら、あそこの地区は大丈夫だよねとか、子供もいるし、やっぱりあそこを拠点にするべきだっていう説明があれば、もっとすっと入っていきやすいんじゃないのかなと僕も思うので、予算特別委員会というか、3月議会の前にはやるべきだというふうに僕も思います。

○石垣直樹委員 この学校給食に関しては、当初は一部民営化、民間委託から始まって、最終的には僻地校の調理員不足というふうにどんどん論点が変わっていった、さらには学校給食費の公会計、これに関しては議案も上がっていないのに、お前ら反対していただろう、とまでに言われるような混迷を極めている課題だと思っておりまして、皆さんがおっしゃっているように自分も当初から最終的にどこを目指すのか、そこをしっかりと示さないと目先のことだけやっていても駄目だよという話をしてきたのですけれども、結局現状は変わっていないと。

これは先ほどのごみ処理についても同じことで、結局は同じなのです。長期的なビジョンを示さないから、ゴールを示さないから、イエスと言えないだけで、そこをしっかりと示して、そこに向かっていかないといけないという単純な……まあ単純でもないのですけれども、ということだと思いますので、まずはそこをしっかりとつくっていくべきかと思います。

○近藤憲治委員 ちょっと目指すべきところを議論しようという部分で、コンセンサスがあるのかなというふうに受け止めましたけれども、ちょっとこの学校給食をめぐる議論でちょっと注意しなければならないのは、学校統廃合と関連しているのか、していないのか、みたいなところがあるのですけれども、学校統廃合というのは極めて何て言いますかね、センシティブな課題だというふうに思っています。

そこもセットで議論するのだということまでいくと、多分ですね、調査の時間はかなりかかるのかなと。

ですので、私は金兵委員が冒頭におっしゃられていた給食の在り方という部分に特化して、ビジョンを出し合うというような調査を進めていく必要があるのかなというふうに思っています。

○松浦敏司委員長 いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

いろいろと御意見をいただきました。

正副としてちょっと協議をさせていただいて、3月の議会前に委員会としてさらに議論できる場をつくれるようにしたいというふうに考えております。

日程については、正副で調整させていただいてということになるかと思っておりますので、そういったことで、今日の委員会はこの程度で閉会してよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、これで文教民生委員会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

午後0時16分閉会